

14 海の豊かさを
守ろう



海を守るにはまずはゴミから！

今回は海の豊かさを守るための取り組みの中から、「海のゴミ」の問題について紹介します。このまま何もしなければ、2050年には海には魚よりプラスチックゴミが多くなると予測されていることをご存知ですか*？私たち一人一人の取り組みで海の豊かさ、私たちの生活の豊かさを守りましょう。 ※出典:[日本財団ジャーナル](#)

1 みんなの海をきれいに

皆さん、海岸がペットボトルやビニール袋などでゴミだらけになっている光景を一度は見たことがあるのではないのでしょうか。実は海岸の漂着ゴミの約 8 割は街から川を伝って流れ出たものなのです。ポイ捨てされたペットボトルや空き缶、飛ばされやすいマスクやビニール袋などが巡り巡って、海岸を汚してしまいます。そして、漂着ゴミは景観を悪くするだけでなく、海洋環境にも影響を及ぼします。みんなの海を守るために、ゴミを出さない、捨てない、拾うという個人の行動が重要です。 ※出典:[UN World Ocean Assessment\(Allsopp,et al.,2006\)](#)



2 コンタクトレンズを正しく捨てよう

日本人の約 4 分の 1 が使っているコンタクトレンズ*。アメリカでは 15～20%の使用者が使用済みレンズを下水に流しています*。コンタクトレンズは 5mm 程の大きさのマイクロプラスチックというゴミになって海に放流されてしまいます。それを小魚などが食べてしまうと、巡り巡ってアザラシなどの海獣にまで悪影響を与えます。愛らしいアザラシ達を守るため、こまめなゴミの分別を心掛けましょう。



※出典:[GfK ジャパン「2015年コンタクトレンズ/ビューティーレンズ調査」](#)、[Arizona State University News \(August 19, 2018\)](#)

3 油を流すだけで魚が食べられなくなる？

余った油やマヨネーズをそのまま排水口に流していませんか？油による海洋汚染は、主に船舶からの石油の流出によるものですが、家庭から出る廃食油も海や川を汚す原因になります。

台所で流された油は生活雑排水として下水管などを通った後、公共下水道の処理場や合併処理浄化槽で処理されます。しかし、天ぷら油などの動植物油は分解速度が遅く、大量に流入すると冷え固まって下水管が閉塞したり、処理場での処理に悪影響を及ぼしたりします。また、単独処理浄化槽を利用している場合は、生活雑排水は処理されないため、油がそのまま川や海に流れてしまいます。川や海に放流されると、分解しきれなかった油は酸化し、魚のエラの機能や、海藻類の光合成を妨げる原因となり、その結果死に至らしめることもあります。魚介類を守るためにも、使い終えた油は回収に出す、凝固剤を使用するなど、適切な処理を行いましょう。



※出典:[環境省](#)

あとがき

私たちの普段のゴミの扱いしだいで、遙か遠くの海の生き物たちにまで影響が出ると知ってとても驚きました。生活の中でちょっとした気遣いを行い、海を守る努力をしていくべきだと感じました。